

平成 17 年 1 月 25 日

貴重な文化財を守ろう！文化財防火デー

自由学園明日館で消防演習

本日午後 3 時から、国の重要文化財である自由学園明日（みょうにち）館（永田晨館長 西池袋 2 - 31 - 3）で消防演習を実施した。主催 池袋消防署

昭和 24 年 1 月 26 日、国宝の法隆寺金堂壁画が火災で焼失したことから、毎年 1 月 26 日を「文化財防火デー」として、文化財を火災・震災から守るため、全国で文化財防火運動が実施されている。文化財の焼失は人類の歴史にとっても取り返しがつかない残念な事態。本区でも関東大震災や戦火を逃れた貴重な文化財を守ろうと、1 月 22 日（土）雑司が谷旧宣教師館（雑司が谷 1 - 25 - 5）、本日の自由学園明日館に続き、26 日（水）には鬼子母神堂境内（雑司が谷 3 - 15 - 20）と、三個所で演習を行なう。

午後 3 時、明日館の 1 階ホール北側中央の暖炉付近から出火したという想定で訓練が開始。火災を発見し従業員らが、手分けして 119 番通報、来館者の避難誘導、初期消火にあたり、その後職員からなる自衛消防隊が、消火器や屋外消火栓を使用した消火活動を行なった。必死の消火活動にもかかわらず火の勢いは抑えきれずに、119 番通報で駆けつけた消防隊員の消火活動より、火災は鎮火した。

演習には、明日館の職員 8 名、明日館関連団体から 15 名、池袋消防団から 10 名、池袋消防署に昨年 12 月 1 日発隊した消火活動の専門家による特別消防中隊を中心に消防隊員 25 名の計 58 名が参加した。演習終了後、池袋消防署佐藤誠予防課長から、「文化財の火災は放火によるものが圧倒的に多く、燃やそうと言う意図があるので揮発油などを使っている場合が多い。少しでも被害を少なくするためには初期消火がとても大切。また、明日館は利用しながら保存する形態なので、利用者の安全確保も重要。そのため、普段から火災発生時の対応を考えておくこと」と訓示があった。また、こうした文化財の消火活動は、施設の職員だけでは不可能なので近隣の方々の協力が必要なため、明日館職員と関連の方々むけに消火器の使用法の講習も実施された。

●自由学園明日館

学校法人自由学園明日館は、1921（大正 10）年羽仁吉一、もと子夫妻が創立した自由学園の校舎として、アメリカ合衆国が生んだ 20 世紀を代表する建築家フランク・ロイド・ライトにより設計され 1922（大正 11 年）に完成した。木造で漆喰塗の建物は、中央棟を中心に左右に伸びた教室棟を厳密なシンメトリーに配しており、高さを抑えた地を這うような佇まいを特徴とし、高層ビルが立ち並ぶ池袋の街並みに、ふと空が臨める開放的な空間を演出している。

アメリカ以外に残る数少ないライト設計の建築として歴史的、芸術的価値が評価され、1997 年 5 月に国の重要文化財の指定を受けた。独特の幾何学模様の窓や質感豊かな大谷石をふんだんに使った建築は、関東大震災や第二次世界大戦の空襲からも免れたが、80 年の歳月のなかで老朽化が顕著になったため、1999 年 3 月から 2001 年 9 月まで保存修復工事が行われた後、使いながら文化財価値を保存する“動態保存”を志向し、日々コンサート、講演会、結婚式・披露宴、クラス会など多種多様な催しものに会場を開放している。

詳細：池袋消防署予防課指導調査係